

感染症情報発生動向調査速報

平成24年第7週 平成24年2月13日（月）～平成24年2月19日（日）

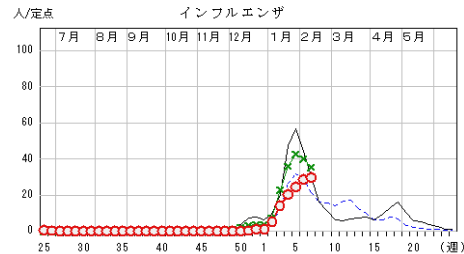
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

(1) インフルエンザ

第07週の報告数は2085人で、前週より89人多く、定点当たりの人数は29.79であった。

年齢別では、10～14歳（478人）、6歳（175人）、5歳（149人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、長崎市保健所（43.94）、県央保健所（30.10）、県南保健所（28.88）が多かった。

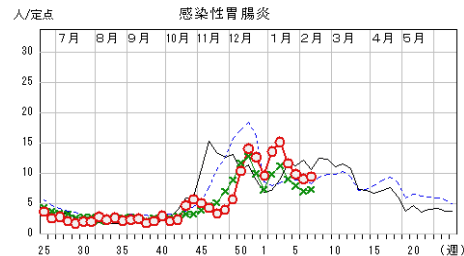


(2) 感染性胃腸炎

第07週の報告数は417人で、前週より19人多く、定点当たりの人数は9.48であった。

年齢別では、1歳（79人）、10～14歳（63人）、4歳（36人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、県南保健所（18.80）、西彼保健所（15.25）、県央保健所（9.50）が多かった。

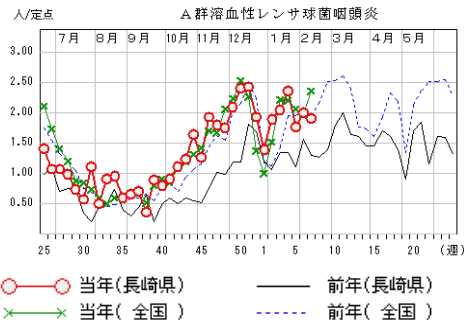


(3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第07週の報告数は84人で、前週より4人少なく、定点当たりの人数は1.91であった。

年齢別では、4歳（15人）、6歳（15人）、5歳（14人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、県南保健所（5.20）、県央保健所（2.67）、対馬保健所（2.50）が多かった。



☆トピックス・季節情報

【インフルエンザ】

長崎県における第7週の報告数は2085人で、前週より89人増加して、定点当たりの人数は29.79と前週の28.51を若干上回り、県下全域から報告が上がっています。本県では第2週から報告数が急増し始め、長崎地区（43.94）、県央地区（30.10）は前週より報告数が増加しており、警報レベル「30」を超えています。対馬地区、県南地区では若干の報告数の減少はみられるものの、依然として警報レベルにあります。また、五島地区以外においては前週の報告数を上回っており、注意報レベル「10」を超えています。現在、県全体では注意報レベルの状態にあり、今週も定点当たり報告数の上位3疾患のトップとなっています。第1週から今月22日までの間に、県下の幼稚園や保育所、小、中および高等学校等において、2校（園）が臨時休業、60の学年閉鎖及び107の学級閉鎖が報告されています。全国的には本年、A香港型が大流行しておりますが、長崎県下では、昨年本土地区の学童を中心に他府県に先駆けてA香港型の比較的大規模な流行が起きましたので、昨年以上の流行にはならないものと予想されます。（図参照：☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況 インフルエンザ）例年どおりに推移すると現時点がA型流行のピーク時になりますが、今後の動向に注視し、感染予防に心掛けましょう。

当研究センターに搬入された患者の検体について2月分の検査を実施したところ、約3/4がA/H3、いわゆるA香港型のインフルエンザウイルスの遺伝子、約1/4からB型の遺伝子が検出されており、B型の検出頻度が増加しつつあることから、流行シーズンの後半にさしかかってきたものと推測されます。

インフルエンザには抗インフルエンザ薬がありますが、予防にはワクチン接種が有効な手段の一つです。また、当疾患に罹患しても抗インフルエンザ薬の普及により欠席日数が少なくなっているようです。解熱してもしばらくはウイルスが排泄されていますので、他の人とうきさないためにも十分な休養をとりましょう。小さいお子さんや高齢者はもとより、受験シーズンでもありますので、受験生の方も外出からの帰宅時にはうがい、手洗いの励行、マスク着用などによる「咳エチケット」で積極的な感染防止に努めましょう。

県内の保健所別定点当たり報告数と警報・注意報レベル状況(インフルエンザ)
長崎県(2012年第07週)

	今週		1週前		2週前		3週前		4週前		5週前	
	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況
佐世保市	25.00	○	22.73	○	29.91	○	35.91	○	26.45	△	5.91	-
長崎市	43.94	○	43.24	○	41.35	○	37.65	○	22.47	△	8.24	-
壱岐	24.67	△	17.33	△	4.33	-	3.33	-	7.67	-	2.67	-
西彼	28.67	△	22.67	△	16.83	△	11.50	△	4.33	-	1.33	-
県央	30.10	○	23.00	△	18.70	△	8.30	-	3.20	-	1.80	-
県南	28.88	○	36.13	○	23.50	△	14.88	△	8.88	-	7.75	-
県北	28.25	△	20.50	△	13.25	△	5.50	-	5.00	-	3.75	-
五島	7.60	△	10.80	△	8.60	-	6.20	-	8.20	-	1.00	-
上五島	19.67	△	19.33	△	9.67	-	11.33	○	36.00	○	11.33	△
対馬	25.00	○	36.67	○	19.00	△	4.33	-	0.33	-	-	-
長崎県	29.79	△	28.51	△	24.33	△	20.23	△	14.21	△	5.15	-

警報・注意報レベルの基準値(定点当たり報告数)

- :警報レベル
- △:注意報レベル
- :警報・注意報なし

警報レベル		注意報レベル
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10

【感染性胃腸炎】

長崎県における第7週の報告数は417人で、前週より19人増加し、定点当たりの人数が9.48で、全国定点当たりの人数(7.41)を若干上回っています。インフルエンザの流行の影に隠れていますが県下全域で報告が上がっており、今後の動向に注視していく必要があります。

感染性胃腸炎は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。年齢別に見ると、報告の多くが1~2歳の乳幼児が占めています。原因はロタウイルス、ノロウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、細菌性の場合もあります。ロタウイルスについては昨年7月にワクチンが製造承認されており、予防することが出来ます。小さいお子さんがいらっしゃるご家庭では、保護者の方が手洗いの励行、体調管理や体調の変化に心掛けてあげるなどして感染防止に努め、早目に医療機関を受診させてあげるよう心がけましょう。

【A群溶血レンサ球菌咽頭炎】

長崎県における第7週の報告数は84人で、前週より4人減少し、定点当たりの報告数は1.91でした。壱岐、上五島地区を除く地域で報告があり、前年に比べて長崎県下における報告数は増加傾向にあり、注意が必要です。

本感染症の好発年齢は5~15歳で、鼻汁・唾液中のA群溶血性レンサ球菌の飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1~4日で、突然の発熱(高熱)、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により多くは1~2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早期に医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

